

北九州市障害者スポーツセンター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月8日（金） 17:00～18:45
- 2 場 所 北九州市役所 特別会議室 A
- 3 出席者 (検討会構成員) 内田構成員、後藤構成員、森構成員（座長）、
(事務局) 保健福祉局 荒田課長、菅係長、古澤
- 4 会議内容
 - 各企画提案書について事務局より説明
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について、事務局より説明
 - 応募団体より提案概要に関してプレゼン
 - 応募団体との質疑応答
 - (構 成 員) これまでの施設利用者の地理的な範囲はどのあたりか。これまでの実績と、今後の提案の中で利用者の範囲をさらに広げていこうという感じなのか、それとも現状の範囲でリピートしてもらいながら努力をしていくのか、構想をお伺いしたい。
 - (応募団体) 地理的な範囲の状況として、小倉南北の近隣エリアが7～8割を占める状況であり、以前、小倉南区に所在していた当時も同じ状況であった。どうしても地理的な課題があることを認識している。ご指摘いただいた課題を意識しながら、知恵を絞りながら取り組んでまいりたい。
また、受託事業ではあるが、地域に指導員が訪問してスポーツ活動の振興を図ることは継続してまいりたい。市内一円の施設やプールを使用し、なるべく市内全域の方が利用できるように、努めている。
 - (構 成 員) 全体として、これまでの管理運営のあり方と、これから新しく取り組んでみたい、という強調するものがあればお伺いしたい。
 - (応募団体) これまで、障害のある人とない人が利用できる、みんなのスポーツセンターということの一つのテーマとして運営してきた。全体の利用者の中で、障害のある方が約3割で、健常者の方が約7割という状況である。障害者スポーツの振興を図る上で、支援していただくマンパワーの確保としては、人的な宝庫であるにとらえており、障害のある人もない人も一緒にスポーツをするというあり方を目指してきた。今後もそれには変わりはないが、多くの方が関心を持たれた東京パラリンピックのレガシーを継承しながら、さらにこれまで培ってきたものを、より効果的に生かしていきたい。
 - (構 成 員) これまで運営されてきて、問題などいろいろあったと思うが、その

改善策など、前回の提案から変えた点があるか。

(応募団体) 今年1月末にプールでの利用者の溺水事故が発生し、多くの方にご心配、ご迷惑をおかけした。その後、二度とこのような事故が起きないように、例えば、教室ごとのマニュアルの作成や、職員の安全研修などを行うこととし、安全対策の改善点として取り組んでいく。また、福祉事業団本部からも、アレアスの現場職員との合同会議などに出向き、問題点などをしっかり共有するように改善した。

(構成員) 意見箱にはどのような要望や意見が、どれくらいあるのか。

(応募団体) 1週間に2～3件で、比較的多いと思っている。例えばシャワー室のカビが多いなど、設備面やハード面が主な内容である。また、コロナ対策として現在、利用回数・時間などの制限を設けさせていただいているが、以前のように自由に利用したいという意見もいただいている。

(構成員) 教室ごとの安全対策マニュアルとして、具体的には、例えば潜水時間を計測するなどの改善をしたと思うが、ミズノスポーツのリスクマネジメントデータベースの中に、ヒヤリハットの集積がされているのか。

(応募団体) リスクマネジメントデータベースには、いろいろな事故が集約されており、その中に、同じようなプール事故などのヒヤリハット事例を共有している。

(構成員) 東京パラリンピックのレガシーについては、具体的な取り組みや今後の展望などはあるか。

(応募団体) 東京パラリンピックでは、多様性と調和がテーマとしてうたわれており、まさにアレアスで一番力を発揮できる部分と考えている。アレアスでは、スポーツを通じて、障害に対する啓発に取り組んできており、広く社会に関心を集めた東京パラリンピックのレガシーとして、アレアスの取組みをさらに深めていきたい。

(構成員) 障害のある人が利用する施設であり、例えば、糖尿病の低血糖症状やてんかん発作のある方の利用もあると思うが、看護師の方から職員への研修などの取り組みはしているか。

(応募団体) 常勤の看護師はいるが、普段から密接に職員とのコミュニケーションを取りながら業務に当たっており、日々の取組みが職員の研修につながっている部分はあると思っている。過去には、看護師が講師となり、プールでの水分補給の重要性などに関する研修を行ったことはある。

(構成員) 障害者スポーツセンターは、とても専門性が高い人材が必要であると思う。2期、3期と運営に携わって、次の5年を運営する中で、ボランティアの育成に加えて、施設そのものをマネジメントする次の人材を確保、育成することも長期的には必要なことと思う。ただ、指定管理施設のため、5年スパンで人を雇用することは難しい判断になると思うが、人事の計画がこれからの5年であるのか。

- (応募団体) 福祉事業団が運営している障害者施設、高齢者施設で採用した職員の中から、障害者スポーツに興味や特性を持っている職員に、障害者スポーツセンターに勤務してもらうなど、今後も続けて、長期的なマネジメントができる職員が育っていくように取り組んでいる。
- (構成員) これからデジタル社会になり、例えばペーパーレスやキャッシュレスの時代になってきており、今後、施設がデジタル社会に対応できるサービスを導入していく計画があるか。
- (応募団体) 事業団全体として ICT 化をすすめているところではあるが、現状として提案できる部分がないため、今後の課題とさせていただきたい。
- (構成員) 収支計画について、5年間同じ額で計上している。例えば、今年はここに力をいれるなど、年度によって特色を持つ計画にしてもよいのではないか。
- (応募団体) 指定管理料の上限額の中での予算のやり繰りで同額の提案とさせていただいている。毎年の事業計画の際には、例えばデジタル化の取り組みなど、特徴ある計画をたてていくということはしなければいけないと思っている。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点や意見を記入。集計結果をもとに、構成員全員で意見交換を行った。

・「適性」についての記入意見

- (構成員) 人材の確保は長期的に可能と思われる。実績と専門性を有している。
- (構成員) 人的、財政的、実績は十分である。
- (構成員) 共同体として、それぞれの理念や基本方針がしっかりしている。お互いの強みを活かして、相乗効果が期待できる。

・「有効性」についての記入意見

- (構成員) 障害者担当の事業団と一般利用者担当のミズノとの連携が十分かどうか。意見箱やアンケートをなど反映することは良い。
- (構成員) 特に提案がないように思う。
意見や苦情の具体例がなく、苦情解決委員会開催の記載もない。対応がアレアス内で終わっているのではないか。組織全体で開かれた会議の必要性を感じる。

・「効率性」についての記入意見

- (構成員) 適切に行われている。

・「適正性」についての記入意見

- (構成員) 人的には十分である。関係者との連携も考慮されている。
- (構成員) 指定管理の応募要件である“スポーツ”にこだわり過ぎているため、広い人材育成を期待したい。平等利用と障害のある人の施設である

配慮や工夫がされている。個人情報保護も適正に行われている。
(構 成 員) ボランティアの育成や活用は評価できる。

- 検討の結果、検討会として評価レベルを、
適性（１）施設の管理運営に対する理念は4、（２）人的・財政基盤は4、（３）実績・経験は4、有効性（１）設置目的の達成は3 （２）利用者満足向上は3、効率性（３）指定管理料及び収入は3、（４）収支計画の妥当性及び実現可能性は3、適正性（５）管理運営体制は4、（６）平等利用等は3に、決定した。
- また、付帯意見として、以下を付すこととした。
 - ・ICT化、SNSの活用、ウェブによるアンケート、キャッシュレスの導入などを検討してもらいたい。
 - ・合宿等での多様な施設利用の検討を行ってもらいたい。
 - ・スポーツに特化せずに幅広く、職員の人材育成やボランティアの育成をしてもらいたい。
- 事務局は合計得点を発表し、検討会として、応募団体が、市の要求水準を満たしており、一応の能力を有していることを認めた。
- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。